

わが友  
わが母校

## 都立立川高校

プレシジョン・システム

・サイエンス社長

たじま ひでじ

田島 秀一 氏 (67)



立川高校の自由で『バンカラ』な校風が好きだった。私は拘束されるのが嫌いで、勉強などはあまりしなかったが、剣道だけは面白かった。何より仲間が楽しかった。バンカラ風に特に憧れたメンバーが剣道部に集まつたせいでもあるだろう。

立高剣道部は伝統があり、部員も40人以上いる強豪だった。部長は警視庁幹部となった田中甲子君。剣道一家に育った猛者で厳しかったが、お互い認め合う仲だった。私はいつも、まっすぐに打つ面一本で勝負した。小手や胴は全く狙わなかった。仕事でも生き方でもまっすぐでないものは今も性にあわない。

剣道部の団野達郎君（元日野自動車常務執行役員）はロング

ヘアで斜に構えたところもあったが、かなりのひょうきん者。当時は想像もしなかったが、2015年10月にわが社の社外取締役となり、今まで苦楽をともにしている。他に、F1レーサー佐藤琢磨選手の父親の佐藤和利君（弁護士）、不動産ベンチャーのワイン・マックス（東京都新宿区）を起こした田房幸三郎君など個性豊かな部員で、厳しい寒中稽古や真夏の合宿を乗り越えてきた。

剣道場の隣で柔道をしていた1年先輩の森安建雄君も印象が強い。家が近所で小学校からの友達。バンカラを絵に描いたような男で、いるだけでムードが変わる。こんな男は一体、どんな道を進むのだろうと思ってい

# 仕事でもまっすぐに



たら、映画監督今村昌平さんの助監督になった。悲しくも亡くなってしまったが、今村監督に命をささげ、日本の映画界を支え続けた1人だ。

また、校内に皆で集まって騒げる「コンパ室」というのがあった。ここで仲良くなったのが卓球部の角田厚夫君と民族音楽研究部の湯浅豪人君。それぞれキヤノン、アパレルメーカーで働き、定年退職した今は大企業のモノづくりや組織づくりを教えてくれる良き相談相手だ。

立川高校剣道部のメンバーと（後列右端に立つのが田島さん、後列左から2人目が団野さん、前列左端が佐藤さん、前列中央が田中さん、後列左端が田房さん）

行く方向はおのれの違ったが、またここに来て集まり、それぞれの経験をもって私を支えてくれている。人脈とは連綿とつながるものだと実感している。  
(水曜日に掲載)